

# 資料 3-5

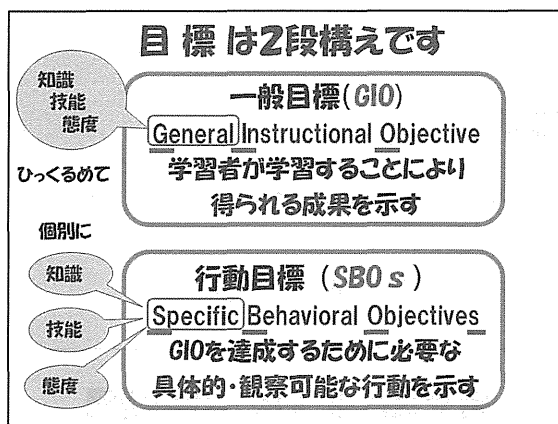
講演

特別講演

「ワークショップの隠し味-タスクフォースのスキルアップのために」

中島宏昭先生 (昭和大学医学部)

<p style="text-align: center;"><b>ワークショップの隠し味</b> タスクフォースのスキルアップのために</p> <p style="text-align: center;">全国薬学教育者アドバンスドワークショップ(平成24年度) 2012.12.23 中島 宏昭</p>	<p style="text-align: center;"><b>時々受ける、いくつかの疑問</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標の形式</li> <li>2. 必要と要求</li> <li>3. 「技術」と「技能」</li> <li>4. コースとユニットの関係</li> <li>5. 「技能」、「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？</li> <li>6. 「評価の特異性」とは？</li> <li>7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか？</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>時々受ける、いくつかの疑問</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標の形式</li> <li>2. 必要と要求</li> <li>3. 「技術」と「技能」</li> <li>4. コースとユニットの関係</li> <li>5. 「技能」、「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？</li> <li>6. 「評価の特異性」とは？</li> <li>7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか？</li> </ol>	<p style="text-align: center;"><b>目標の作り方</b></p> <p style="text-align: center;">(ニーズ)を満たすために、(学生が)~を修得する <b>SBOs</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ~を列記できる (想起)</li> <li>2) ~をできる (技能)</li> <li>3) ~に配慮する (態度) 数個~10数個のSBOs</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>目標の作り方 (医学系では)</b></p> <p style="text-align: center;">(ニーズ)を満たすために、(研修医が)~を修得する <b>SBOs</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ~を列記できる (想起)</li> <li>2) ~をできる (技能)</li> <li>3) ~に配慮する (態度) 数個~10数個のSBOs</li> </ol>	<p style="text-align: center;"><b>目標の作り方</b></p> <p style="text-align: center;">(ニーズ)を満たすために、(学生が)~を修得する <b>SBOs</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ~を列記できる (想起)</li> <li>2) ~をできる (技能)</li> <li>3) ~に配慮する (態度) 数個~10数個のSBOs</li> </ol>



### GIOは学生に伝えたいことを 文章にしたもの

考えを文章にすることは大変な作業です。  
だからGIOを作るのは大変なのです。


思いをきちんと伝えるためには、明確な動詞を使うことが必要です。

形容詞と副詞で味付けをしてニュアンスを伝えます。

### 学習者が口ずさみたくなる目標

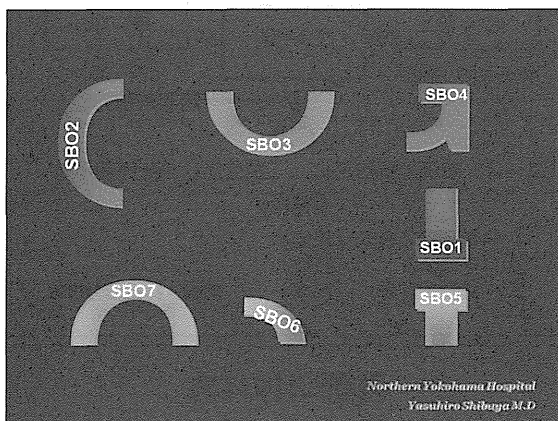
- 自分の経験から生まれた目標を文章にすることで情報となり、他の人に伝わる
- 文章化するのとは大変
- 目標を口ずさんでいるときは、やる気になっているとき
- 口ずさみたくなるような目標

### 研修目標の発表は



**中間発表**  
できたところまで発表  
発表後は提案・指摘を聞くのみ

**本発表**  
発表後は討論



### 時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」・「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないのか？

### 技術と技能

**技術** かんなどで木を平らに削る技術・・・一般的なもの

- ① 物事を巧みにしとげる技。技芸
- ② 自然に人為を加えて人間の生活に役立てるようにする手段。そのために開発された科学を実際に応用する手段。

**技能** その技術を繰り返し身につけたもの・・・個人のもの

物事を行う腕前。技量 大辞林(三省堂)

### 時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」・「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないのか？

## コースとユニットとの関係

大学のGIO (理念)			
各コースのGIO			
ユニット1 GIO, SBOs 方略 評価	ユニット2 GIO, SBOs 方略 評価	ユニット3 GIO, SBOs 方略 評価	(ユニット 4) GIO, SBOs 方略 評価

コースのGIOを達成できたかどうかで総括的評価をする

## 時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」、「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないのか？

## 技能・態度の評価を客観的にするために

### 1. 道具(ツール)を使用する

- ・ チェックリスト
- ・ 評定尺度

### 2. 評価者を複数にする

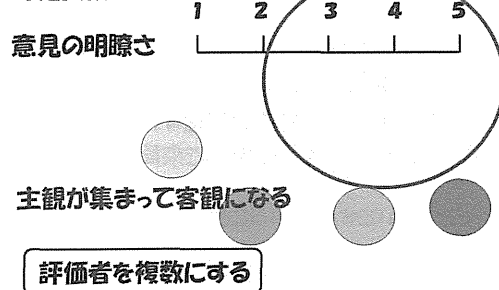
## チェック・リスト

	YES	NO
1. 自己紹介したか	_____	_____
2. 患者の名前を患者に尋ねて確認したか	_____	_____

## 評定尺度

	良くない	普通	最良		
	1	2	3	4	5
1. 意見の明瞭さ	_____	_____	_____	_____	_____
2. 感情的言動の抑制	_____	_____	_____	_____	_____

## 評定尺度



## まず個人がつけて複数で

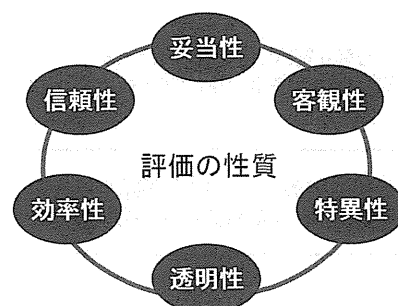
### [身だしなみ]

個別評価	YES	NO				
1. 髪型は適切	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
2. 髪の色は問題ない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
3. 爪の長さは適切	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
4. 白衣を着こなしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
総合評価	1	2	3	4	5	6
大いに問題あり						大変良い

## 時々受ける、いくつかの疑問

1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」、「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないのか？

## 良い評価法を選択するための条件



### SBO ① : 挨拶する

ところが、挨拶しない。

知識・技能・態度の何が足りないのか、このSBOでは分からない

SBOs

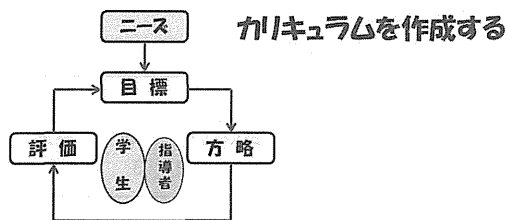
- ・ 挨拶の大切さを説明できる (知識・解釈)
- ・ 時と場と相手に応じて適切に挨拶できる (技能)
- ・ いつも気持ち良く挨拶する (態度)

適切な評価をするために、特異性をもったSBOsを作る

### 時々受ける、いくつかの疑問

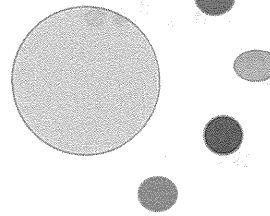
1. 目標の形式
2. 必要と要求
3. 「技術」と「技能」
4. コースとユニットの関係
5. 「技能」「態度」を「知識」と同じように客観的に評価できるのか？
6. 「評価の特異性」とは？
7. カリキュラム・プランニングは画一的な人間を創るのではないか？

### 学生ひとりひとりの状況・レベルに応じて



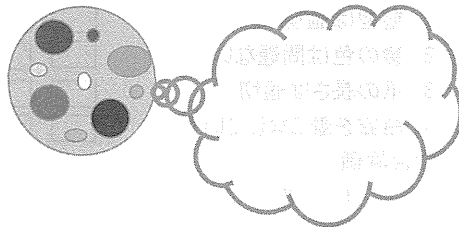
### Teaching

教え込む



### Learning (自分で学ぶ)

引き出す



### 例えばSBOsの表現で

1. 朝は必ず挨拶をする。
2. 朝は明るい声で挨拶をする。
3. 来局者の目を見つめて話す。
4. **目で受け入れる気持ち**で来局者を見る。

隠し味!

「ここいいですね」ということを短く、さうつと言う。

「～でなければなりません」とは言わない。

### 育てる

こうなって欲しいと思うことを、本人の行動の中から見つけてさうつと指摘する

引き出されることで本人が新たにそのことを意識し、本人なりの人格を創りだして行く

# 資料 3-6

話題提供

話題提供

平田 收正 (大阪大学)

<p>薬学教育協議会 第1回全国薬学教育者アドバンスワークショップ (タスクフォーススキルアップ集会) 「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」</p> <p>薬学教育協議会 薬学教育者ワークショップ委員会 平田 收正</p>	<p>話題提供</p> <p>1. 厚生労働省科研費事業</p> <p>2. 薬学教育者ワークショップの在り方</p> <p>① 薬学教育の支援体制</p> <p>② 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂</p> <p>③ 学習成果基盤型教育(outcome-based education)</p> <p>④ 第三者評価で求められる学習成果の評価</p> <p>3. 今後の取り組み</p>
---	---

<p>厚生労働省科研費事業</p> <p>厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業</p> <p>◆ 課題名 「薬剤師養成の実質化を実現するための実務実習指導薬剤師養成研修改革に関する調査研究」</p> <p>◆ 期間 平成23～24年度(2年間)</p> <p>◆ 研究代表者 須田 晃治(薬学教育協議会)</p> <p>◆ 研究分担者 平田 收正(薬学教育者ワークショップ委員会)</p> <p>◆ 研究協力者 薬学教育者ワークショップ委員会委員</p>	<p>厚生労働省科研費事業</p> <p>◆ 事業の目的 研修プログラム(WS)の有用性・実効性の検証と、これらを担保するための改善策の策定・提案</p> <p>◆ 事業内容</p> <p>【平成23年度】</p> <p>1) WS参加者、タスクフォースに対するアンケート調査</p> <p>2) シニアタスクフォースの派遣</p> <p>【平成24年度】</p> <p>1) 中堅・若手タスクフォースの交流</p> <p>2) シニアタスクフォースの派遣</p> <p>3) 全国アドバンスWSの開催</p>
---	---

<p>厚生労働省科研費事業</p> <p>(1) 研修プログラム(WS)の有用性・実効性の検証</p> <p>・平成23年度に実施した1)及び2)の事業により、WSにおける課題として以下の点が明らかになった。</p> <p>① 参加者が実務実習の指導において重要と考える「方略」のセッションが効果的に行われていない。</p> <p>② タスクフォースのスキルアップ、意識統一が必要である。</p> <p>③ 若手タスクフォースの養成が必要である。</p> <p>④ 実務実習が始まったので、より実際の臨床現場での教育に有効な内容に変更した方が良い。</p> <p>・また、今後のWSの在り方について以下のような意見・要望もある。</p> <p>⑤ 現在改訂作業が行われているモデル・コアカリキュラムに合わせてWSの内容を変更すべきではないか(Outcome-Based Educationとの関連性)。</p>	<p>厚生労働省科研費事業</p> <p>(2) 研修プログラム(WS)の有用性・実効性を担保するための改善策の策定・提案</p> <p>・平成24年度は、WSの有用性・実効性を担保するための改善策として、以下のような事業を実施した。</p> <p>① トライアルとして「方略」のセッションの時間を90分から120分とした。また「方略」を予め意識してもらうために、1日目の昼休みにコミュニケーション能力の教育方法(学習方法)を考えてもらう時間を設定した。</p> <p>② 地区単位で実施するアドバンスWSのモデルプログラムを提示した。</p> <p>③ 全国アドバンスWSを開催し、タスクフォースのスキルアップを図った。</p> <p>④ 中堅・若手タスクフォースの地区間交流を行った。</p> <p>⑤ ベテランタスクフォースを他地区に派遣し、タスクフォースのスキルアップ及び意識の統一を図った。</p>
---	--

### 薬学教育の支援体制

新薬剤師養成問題懇談会(新六者懇)

- ・文部科学省(高等教育医学教育課)
- ・厚生労働省(医薬食品局総務課)
- ・日本病院薬剤師会
- ・日本薬剤師会
- ・国公立薬学部長(科長・学長)会議
- ・日本私立薬科大学協会

オフザパー

- ・日本薬学会薬学教育改革大学人会議→薬学教育委員会
- ・一般財団法人・薬学教育協議会
- ・財団法人日本薬剤師研修センター
- ・薬学共用試験センター
- ・一般社団法人薬学教育評価機構

### 薬学教育の支援体制

全国レベルで開催されているワークショップ

認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)  
主催: 薬学教育協議会  
参加者: 病院、薬局薬剤師、大学教員

全国学生ワークショップ  
主催: 日本薬学会教育委員会  
参加者: 全国の薬学生(6年次生)

薬学教育者のためのアドバンストワークショップ  
主催: 日本薬学会教育委員会  
参加者: 大学教員、病院、薬局薬剤師

薬学教育指導者のためのワークショップ  
主催: 文部科学省  
参加者: 薬科大学長、薬学部長

### 薬学教育の支援体制

#### 文部科学省

- 薬学教育指導者のためのワークショップ
- 薬学系人材養成の在り方に関する検討会  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/039/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/039/index.htm))
- ・薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/47/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/47/index.htm))
- ・新制度の薬学部及び大学院における研究・教育の状況に関するフォローアップワーキンググループ

### 薬学教育の支援体制

公益社団法人 日本薬学会 (薬学教育:<http://www.pharm.or.jp/kyoiku/>)

- 薬学教育改革大学人会議
  - ・実務実習指導システム作り委員会
  - ・実務実習環境整備委員会

薬学教育部会

平成23年度設置

薬学教育委員会

- ・薬学における学士力・博士力作業班(継続事業)
- ・生涯研鑽制度作業班
- ・薬学教育者アドバンストワークショップ作業班(継続事業)
- ・モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会

### 薬学教育の支援体制

一般財団法人 薬学教育協議会 (<http://www.yaku-kyou.org/>)

○ 薬学教育協議会は、昭和33年に「薬学教育の充実・改善・発展」を目的に任意団体として創設された。平成20年には一般社団法人となりましたが、創設時の精神を引き継いで薬学教育にかかわる下記の事業を実施している。

- ・薬学教育に関する調査・研究・評価
- ・薬学教育カリキュラムの検討
- ・薬学教育者ワークショップの実施  
→薬学教育者ワークショップ委員会
- ・病院・薬局実務実習の円滑な実施のための調整  
→実務実習推進委員会・病院薬局実務実習地区調整機構
- ・学部卒業生及び大学院修了者の就職動向調査
- ・薬学系学部または学科教員の教科担当者会議の開催

### 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

#### 文部科学省

薬学系人材養成の在り方に関する検討会  
薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

↓

文部科学省  
大学における医療人材養成推進等委託事業

↓

日本薬学会 薬学教育委員会

↓

薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する調査研究

↓

・モデル・コアカリキュラムの改訂に関する調査研究委員会  
(薬学教育委員会委員・協力委員+全薬系大学教員)

### 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

#### 現行のモデル・コアカリキュラム

日本薬学会(平成14年8月)  
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」  
薬剤師、薬学研究者等を指す学生が学んで欲しい内容を整理した薬学専門教育のガイドライン。

1,446項目の目標

コアカリキュラムが7割、残り3割はオリジナル(アドバンスト)教育を行って、大学の特徴をだす。

文部科学省(平成15年12月)  
「事前学習・病院実習・薬局実習モデル・コアカリキュラム」の目標、方略を作成し、その後評価(案)も作成。

事前学習 17 SBGs, 1ヶ月  
薬局実習 116 SBGs, 2.5ヶ月  
病院実習 108 SBGs, 2.5ヶ月

### 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

#### モデル・コアカリキュラムの改訂

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂について(案)2012.1.17  
(第5回薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会・資料)

【改訂に関する基本的な考え方】

- 1) 学生と教員が情報を共有できる分かりやすいものとする。
- 2) 現行のカリキュラムとの対比が容易で、変更箇所が明確なものにする。
- 3) SBO表記の原則は、「何をすればよいのか」が学生に直接伝わるものとする。例えば「そのまま試験問題として使用できる」具体性を持つ必要がある。
- 4) 現カリキュラムでは各コース・ユニットを「なぜ」学習するのか、その意義が記載されていない。これを補うために「薬剤師として求められる基本的な資質」(以下「資質」と略)をカリキュラムの最初に明示する。



## 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂

### モデル・コアカリキュラムの改訂

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂について(案) 2012.1.17  
(第5回薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会・資料)

#### 改訂に関する基本的な考え方

- 5) 各分野のGIOを、「資質」部分とリンクする内容に書き直す。
- 6) 各分野のGIOを達成するために必要なSBOsを列挙する。
- 7) 全体の量を減らし、窮屈感を解消する。
- 8) 薬剤師の将来像を見据えたものとする。

➡ 「薬剤師として求められる基本的な資質」を明示する。

➡ 学習目標は、GIOとSBOsによって示される。

#### 薬剤師として求められる基本的な資質 (案)

豊かな人間性と医療人としての深い使命感をもち、生命の尊厳を深く認識し、生涯にわたって業の専門性としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通じて社会に貢献する。6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。  
(薬師としての心構え)  
業の専門性として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、業の倫理及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命を責任感及び倫理観を有する。  
(患者・生活者本位の視点)  
患者の人格を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立ち、これらの人々の安全と利益を最優先する。  
(コミュニケーション能力)  
患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。  
(チーム医療への参加)  
医療機関や地域における医療チームに積極的に関与し、相互の尊重のもとに業務に求められる行動を適切に行う。  
(基礎的な科学力)  
生体及び環境に対する医薬品・化学物質の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。  
(薬物療法における実践的知識)  
薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給、調剤、服薬指導、処方調剤の提案等の薬学管理を実践する能力を有する。  
(他職種・他業種との協働的協力)  
地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携し、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。  
(研究能力)  
薬学・医療の進歩と改善するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。  
(自己研鑽)  
薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたって自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。  
(教育能力)  
次世代を導く人材を育成する意欲と態度を有する。

## 学習成果基盤型教育(OBE)

学習成果基盤型教育(OUTCOME-BASED EDUCATION)とは

- ◆ 教育を終えたときに学生が修得していると期待されることを重視する。
- ◆ ここでの修得は、単に知識を得ているということだけでなく、実際に学生が学習したことを実行できる(performance)能力を有していることを意味する。
- ◆ 学習成果基盤型教育では教育を終了したときに修得していることが期待されることをまず定義し、そのエンドポイントに到達しうる教育を責任をもって提供する。

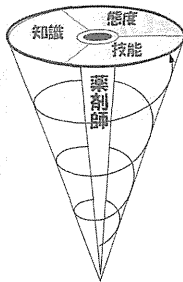
## 学習成果基盤型教育(OBE)

薬剤師教育では

- 「よい薬剤師とは？」という疑問から始めて望ましい卒業生の特性を定義する。
- ↓
- 学生がそのアウトカムに到達したか否かを評価する方法と基準を決める。
- ↓
- 学生がアウトカムに到達できる学習方法を考える。

## 学習成果基盤型教育(OBE)

順次性のあるラセン型カリキュラム Harden 1999

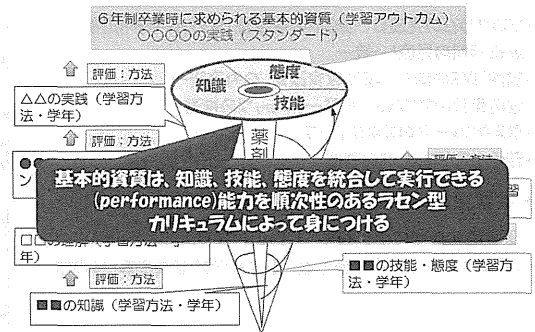


#### ラセン型カリキュラムの特徴

- ・ 同じテーマで繰り返し学習する
- ・ 繰り返し学習では、テーマに沿ってより最新の、高度な、応用できる知識、技能、態度が修得できるように目標、科目が設定される
- ・ 過去の学習内容を更に強化するように目標、科目を設定する
- ・ 科目、学年ごとに修得する内容が増加して、6年制卒業時に求められる基本的な能力に繋がる

## 学習成果基盤型教育(OBE)

順次性のあるラセン型カリキュラム



## 第三者評価で求められる学習成果の評価

- ◆ ヒューマニズム教育・医療倫理教育
- ◆ 教養教育・語学教育
- ◆ 病院・薬局実習
- ◆ 問題解決型学習

「○○○○教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること(が望ましい)。」

## 第三者評価で求められる学習成果の評価

◆ 学士課程修了認定

[基準 8-3-3]

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を適切に評価するよう努めていること。

[観点 8-3-3-1]

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を測定するための指標を設定するよう努めていること。

[観点 8-3-3-2]

総合的な学習成果の測定が設定された指標に基づいて行われていることが望ましい。

➡ 薬学教育の第三者評価でも総合的な学習成果の評価を適正に行うことが求められている。

### 第三者評価で求められる学習成果の評価

#### ◆ ヒューマニズム教育・医療倫理教育

##### 【基準 3-1-1】

医療人としての薬剤師となることを自覚し、共感的態度及び人との信頼関係を醸成する態度を身につけるための教育が体系的かつ効果的に行われていること。

##### 【観点 3-1-1-4】

ヒューマニズム教育・医療倫理教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること。

23

### 第三者評価で求められる学習成果の評価

#### ◆ 教養教育・語学教育

##### 【基準 3-2-2】

相手の立場や意見を尊重した上で、自分の考えや意見を適切に表現するための教育が行われていること。

##### 【観点 3-2-2-4】

コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること。

24

### 第三者評価で求められる学習成果の評価

#### ◆ 病院・薬局実習

##### 【基準 5-3-6】

実務実習の評価が、実習施設と学部・学科との間の適切な連携の下、適正に行われていること。

##### 【観点 5-3-6-4】

実務実習の総合的な学習成果が適切な指標に基づいて評価されていることが望ましい。

#### ◆ 問題解決型学習

##### 【基準 6-2-1】

問題解決能力の醸成に向けた教育が、体系的かつ効果的に実施されていること。

##### 【観点 6-2-1-3】

問題解決能力の醸成に向けた教育において、目標達成度を評価するための指標が設定され、それに基づいて適切に評価されていること。

### 第三者評価で求められる学習成果の評価

#### ◆ 学士課程修了認定

##### 【基準 8-3-3】

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を適切に評価するよう努めていること。

##### 【観点 8-3-3-1】

教育研究上の目的に基づいた教育における総合的な学習成果を測定するための指標を設定するよう努めていること。

##### 【観点 8-3-3-2】

総合的な学習成果の測定が設定された指標に基づいて行われていることが望ましい。

➡ 薬学教育の第三者評価でも総合的な学習成果の評価を適正に行うことが求められている。

### 今後の取り組み

#### ◆ 薬学教育者WSの見直し(継続)

- ・プログラムの見直し(「動詞」の重要性・使い方の説明追加)
- ・配布資料の見直し・統一
- ・講演「WSの歩みと薬学教育改革」の内容統一
- ・地区単位のアドバンスワークショップの推進
- ・タスクフォースのスキルアップ
- ・若手タスクフォースの養成

#### ◆ 学習成果の総合的な評価に関する検討

- ・薬学教育を研究する組織(研究会)の立ち上げ?
  - ☞ 薬学教育協議会と薬学会、薬学教育評価機構等との連携

ご清聴ありがとうございました。

今後とも何卒よろしくお願い致します。

# 資料 3-7

参加者の評価および感想・意見

1. 参加者の評価

(1) 今日のワークショップの流れにスムーズに入りこめましたか。

最低 1 2 3 4 5 最高

中程度

4.0

(2) 今日あなたは討議にどの程度参加しましたか。

1 2 3 4 5

3.8

(3) 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。

1 2 3 4 5

4.3

## 2. 参加者の感想・意見（抜粋）

### （1） アドバンスワークショップに対する感想

- 今回、非常に短い時間の中でのアドバンスワークショップではありましたが、内容の詰まった刺激ある時間であったと思います。今後のワークショップの中で、参加者にわかりやすく、持ち帰って活用し得るよう実践していきたいと思います。
- 参加者が全国からいらしていたので、SGDでは、初めての方とのディスカッションとなり新鮮でした。1P5Sには、驚きました。
- 昼食時の情報交換会は、テーブルの方々とは、出身地域が異なるので、それぞれの地域の実情などの話しが出来ました。
- 久しぶりにSGDの参加者になって、一人が発言することで、まったく違う方向に議論が進んでいくのがわかりました。ついつい、議論を聞いているうちに言葉を挟むことが出来ず、決まりかけた結論が、また振り出しに戻ります。タスクフォースの時は、ホワイトボードの活用と司会者への促しの重要性を改めて実感しました。
- 今回のSGDに参加して各地域でタスクフォースをされている方々の意見を聞くと、今回の討議テーマについては大きな地域差がなく、全国の参加者で討議するに相応しいものであると感じた。
- 本ワークショップの副題は「タスクフォーススキルアップ集会」とある。私は、経験年数だけは増えているが、タスクとして確たる自信を持ってないままだった。今回のアドバンスワークショップに参加し、全国のタスクの皆さんと交流したり、SGD をする中で多くの気付きを得て、少なからずスキルアップできたのではないかと思う。今後のワークショップの中で活かしていきたい。
- アドバンスWS ということで「タスクフォーススキルアップ集会」、「効果的な薬剤師教育に向けたカリキュラムの作成」というサブタイトルがついていました。「タスクフォーススキルアップ集会」という点についてはこれまでタスクを数回経験しているので自身のニーズに合っていました。これまでタスクとして参加したWS では薬剤師の大切な卵を育てる指導者養成の研修会なので責任を感じながら取り組んできました。参加者に満足してもらうために何が出来るかそれを探る目的で今回のアドバンスに参加しました。
- 今後、指導薬剤師のレベルアップは必須のことと考えます。指導薬剤師のレベル維持・向上につながるアドバンスWS に発展すれば良いなと感じました。薬剤師教育に注目が集まり、優秀な後輩薬剤師であふれるようになればとても素晴らしいことだと思います。
- 受講者の立場で参加して、初心に帰ることができたこと、全国でタスクフォースを務められている方々の意見を聞くことができたこと、数年ぶりに中島先生のお話を拝聴することができ、とても幸せな気分で岐路につきました。
- ワークショップから少し時間が経って改めて思い返してみますと、参加者の立場・思いを考えることを忘れてしまっていたなあ、自分も今回は少なからず不安を持って今回参加したけれども、普段のワークショップの参加者はもっと不安を抱えて参加してきているはずだ、タスクとしてはもっと参加者の側に寄り添って行動せねば、という思いを強くしています。
- 昼食時の情報交換会では、実務実習生に対する指導に関する悩みや認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップでのタスクに関する事などについて、多くの参加者と情報を交換することができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- 今回のワークショップへの参加は、あらためてタスクフォースとしてのスキルアップの必

要性とその重要性を認識することができ、非常に有用であった。今後の WS では、今回の経験を活かして、参加者により良いプロダクトを持ち帰ってもらえるようにしたいと思う。

- 指導薬剤師養成ワークショップのタスクフォースとして、プロダクトのクオリティと受講者に対してカリキュラムプランニングの作成過程を学んで頂き、自施設にあった方略や評価方法に関するプロダクトを持ち帰って欲しいとの思いがある。
- 各地域でのワークショップ開催回数が少なくなっており、タスクフォースの経験回数が少なく、なかなかレベルアップが難しい状況にある。今後、可能であれば定期的に、全国のレベルアップや意思統一を図る上で、今回のようなタスクフォースのスキルアップ研修会の定期的開催を希望します。
- 薬学教育ワークショップが薬学生と国民の貢献となることを期待しております。
- 全国からタスクフォース経験者が集まり、情報交換を兼ねてタスクフォースとしてのスキルアップができるということで、これからの実務実習指導薬剤師養成 WS (私個人としては薬学教育者 WS としたほうがいいのかと考えますが)、地区でのタスクフォースの育成（自らの成長も含めて）を考える良い機会になりました。
- WS は、参加者が主体的に論議に参加をしてお互いに学び合う創造の場だと言われています。私たちタスクフォースは、受講者が SGD に積極的に参加をして、グループ共同でよりレベルの高いプロダクトを作成することを、どのようにサポートしていくかを考えなければなりません。そう言った意味で、タスクフォースは、①二日間の WS を楽しく有意義に過ごしてもらうこと②受講者に納得のいくプロダクトを作成したという達成感をもってもらうこと③受講者自らが体験した参加型学習の良さを実習生の指導に積極的に取り入れてもらうこと（まだ他にもタスクフォースの心得はたくさんありますが・・・）そして④「実務実習」が薬学教育の中で重要な位置づけに有り、常により良い実習とは何かを創造していくこと（ですから、実務実習指導薬剤師＝薬学教育者と考えべきかと思います） これらを基に自分たちのタスクワークがどうあるべきか考えさせられる貴重な時間を今回の WS でいただきました。
- 今回参加して、タスクフォースとして疑問に感じていたこと・不安に感じていたことを整理・共有できたことが最大の成果である。これを踏まえて、今後活かしていきたい。
- 今回の集会の参加者は全国から選抜された経験豊富な TF であったが、いざ WS 参加者となると、自分の思いの丈を話し、眼前の問題点の抽出や改善の方向性のディスカッションが有効とはいえなかったと思われる。加えて全体討論の場で、経験豊富な TF であっても WS 参加者となると全体会場での発言が PNP になっていなかったと感じた。
- 最後の話題提供では、薬学教育モデル・コアカリキュラムは既に進化を始めていて、その方向性は明確であるということ。その一翼を担う指導薬剤師も進化の方向性を理解しより良いカリキュラムプランニングを行うことが求められていて、共に進化することが必要であると感じた。
- 一貫して非常に充実した有意義な時間を過ごさせていただきました。
- 今回のアドバンスワークショップでは、全国から集まった大学教員、実務者のタスクフォース仲間とそれを考えてみるよい機会となりました。どらえもんのポケットがちょっと増えたような気持ちです。
- さて、薬学部が6年制となり来年度はもう4度目の実務実習です。そろそろ全国で行われている実務実習を客観的に検証していくことも必要になってくるのではないのでしょうか。より質の高い実務実習を行っていくために、私たち実務者も薬学教育の一端を担う一員としての自覚を持ち、これからも全国の大学の先生方や実務者同士での情報交換を密に行い、助け合って進んでいくことができればと思います。
- 日頃タスクフォースとして感じている疑問や問題点を全国のタスクフォースの皆さんと共

有し、その改善法を討議できたことは私にとって大変有意義でした。

- ▶ 他の多くのタスクフォースの方々にも、このような機会が与えられると、通常のワークショップ運営に好影響をもたらすのではないかと感じた。
- ▶ WS開催回数が減り、タスクフォースとしての資質や能力の向上に不安を覚えることもあるが、今回のようなAWSに参加することでいままでのタスクとしての取り組みを振り返ることができるよいきっかけになったと思う。セッションを通して様々なタスクの方々との議論を重ね、自分の振り返り、スキルの向上、モチベーションの維持など参加者にはよい効果があったのではないかと感じた。
- ▶ 自分自身の成果としては、正直なところ、7時間のプログラムの中では今回のアドバンストWSの意図を消化しきれずに悩みながら帰ったのですが、内容を見直して考えるうちに、今回の参加を通して薬剤師のコンピテンシーを意識するようになり、他地域の多くの先輩タスクフォースの関わり方を学べたことに気付きました。きっと次回のWSでは、今まで以上に目指す方向を意識してタスクフォースを務めることができると思います。
- ▶ 現場の指導薬剤師は認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップで教育の基本となる部分を経験し理解できたように思うが、大学教育者とのズレを感じて指導を行っている。学生に薬剤師としてのすばらしい教育を提供することはもちろんであるが、実務を行いながら実習を担当する現場の指導薬剤師のことも考慮した改定を望むところである。
- ▶ 参加された先生方は経験豊富でシニアタスクのようなメンバーであり私のような若輩者には負担を感じたが久しぶりのワークショップで良い経験ができたと思う。
- ▶ 今回のアドバンストワークショップで理解できたことは、「教育」は難しいということです。教育者（タスク）一人一人の個としての意見と、教育内容（理念や目的など）との統一が本当に難しい。教育カリキュラムを細分化しても、教育者個々の理解や意志の違いが、学習者に対して教育内容を変えてしまう可能性が大きいと感じました。そのためにも、決定された教育プログラムに対して可能な限り系統的な教育が実践されるように、教育者への指導やコミュニケーションを図るための取り組みが非常に重要であると感じました。
- ▶ 例示する書類は非常に重要であると本ワークショップで感じました。午後は、ある例に対してSBOを整理し直して、方略等を検討することでした。ここで提示された資料では、ロールプレイなどとともに、“実践”という表現がありました。実際に調剤したり、服薬指導をしたりすることは、“実習”という表現の方が多用されているように感じていましたが、タスク経験豊富な参加者が集まったにもかかわらず、実践を実習と修正する発表はなく、実践と発表されていました。これは、配布資料に参加者が顕著に左右されることを示しているものと思いました。したがって、教育に用いる配布資料は、細部にまで気を付けて準備しなければいけないと肝に銘じ、今後、学生教育を行いたいと思います。
- ▶ 教育は非常に難しいことではありますが、薬学・薬剤業務の向上には、優秀な後輩を育成していくことが非常に重要なことでもあります。そのためにも、今後も、よりよい教育環境の構築や指導の実践を目指して努力したいと考えます。
- ▶ ワークショップの楽しさ、難しさ、奥深さを再認識しました。今後、タスクフォースを担当する上で、自分に補うべきものを明確にするとともに、新たな気付きの機会を多く与えていただき、心から感謝いたします。
- ▶ 昔、指導薬剤師認定のためのWSでタスクフォースとして御世話いただいた先生方の姿があり、とても懐かしく思った。振り返ってみると、大分長い間、WSで勉強させていただいているんだな、ということを改めて感じた。
- ▶ 普段のワークショップでは、タスクフォースとしての役割を優先していて、参加者の意見を尊重して、それをうまく修正できるかどうか考えることが主であり、自分でオリジナルな意見を出すことが久しぶりだったので、それが難しく、また楽しい経験になりました。

- 今回のワークショップでは、周りに多くのタスクフォース経験者がいて、意見交換も活発に行われ、ディカッションの流れも、本当に時間通りに、しかもしっかりした議論に基づいたプロダクトができたので、自分も多くのことを学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- 医学・薬学の分野は凄まじい勢いで展開し、最善の医療を提供すべく日々進歩しています。薬剤師や薬学関係者は時代に応じた医療・教育・研究を展開していかなければなりません。21世紀は分子標的薬とバイオ医薬品の時代となり、薬物療法も大きく変わってくるでしょう。その流れに合わせた薬学教育のアドバンスが必要です。本WSを通して、21世紀という時代背景を意識した教育プログラムを、刻々と変化する医療に合わせて、再構築していかなければならない重要性を教えてくださいました。
- タスクフォース経験者の皆さんと議論する中で、統一できていないところ、皆が疑問に思っている部分等を共有でき、議論できたことも大切だと思った。
- 全体を通じて、多くの気づき、学びが得られた。ただ、このワークショップ自体のGIO、SBO自体が示されていないなかったため、自分がどのようなスタンスで関わればよいか戸惑った。また、すでに認定を受けた指導薬剤師の資質の維持、向上を目的としたアドバンスワークショップの標準化が必要であると感じた。
- わたくしはタスクフォースの経験もなく、本薬学協議会のワークショップに参加すること自体が初めてで、タスクフォーススキルアップのためのWSに参加してよいものやら...と思いながら、経験豊富な先生方の足手まといになるのではないかと心配と緊張しながらの参加でした。会場に入った時、参加者の皆さんが円陣を組んで座っておられ、ほとんどの先生がにこやかに談笑されておられるのを見て、いったい何が始まるのだろうと益々不安を覚えました。自己紹介のご挨拶を聞いて、ご参加の先生方ほとんどがワークショップを経験された先生で、このアドバンスワークショップを楽しみにご参加されておられるのを知り、次第と興味がわいてきました。ただ、未経験のわたくしが参加するSGDの先生方にはたいへんご迷惑をおかけするのではないかと心配を払拭されることはありませんでした...
- 私自身これまでの認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(WS)でのタスクフォースとしての経験もなく、Bグループの議論について行くのも難しかったが、改めて今後の薬学教育を考えるには本当に良い機会であったと感じる。以前参加したWSの中で、教育は学習者の心に価値ある変化をもたらすプロセスであると聞かされたことを思い出した。ASWを通しタスクフォースをスキルアップさせることで、今後ますますWS参加者そして学生の心に価値ある変化をもたらす薬学教育が発展して欲しいと考える。

## (2) セッションの概要・感想・意見

### 【セッション1】

- 「SBOに使える動詞を考えてみよう」というテーマから、最初に情意領域の動詞が足りないとの発言から「傾聴する」「共感する」「受け入れる」とたくさん動詞が出ました。実際にタスクフォースとして、参加者に説明するときには、どうだろうと議論が広がり、形容詞や副詞をつけて説明することで、よりわかりやすくなると一致した。そんな議論の中から「寄り添う」という動詞が良いとの発言があり、取り入れることになった。SBOとして、「患者さんの気持ちに寄り添う」「他職種と協調する」「末期患者さんの思いを受け入れる」。認知領域では、若い世代を意識して「検索する」、SBOとして、「ARBの副作用



を検索する」。精神運動領域では「調剤する」「計量する」、SBOとして、「水剤を適切に計量する」が決定しました。

- 最初は「共感する」「傾聴する」「質問する」「教える」など一般的、画一的な動詞しか出て来なかった。ひさびさに当事者となり、ワークショップ参加者の産みの苦しみを味わったが、タスクの21世紀という時代に求められる薬剤師像をイメージしてという助言から、「心音を聴く」「脈を取る」等、具体的な動詞が湯水のごとく湧いてきた。追加した動詞を用いたSBOも「得られたバイタルサインに基づいてアセスメントする」「来局者の症状に応じて薬学的診断に基づき（医薬品使用の要否、受診勧奨等）、トリアージする」など、カタカナ動詞を使った斬新、かつ夢のあるものになった。自分の経験や環境の枠組を超えられない発想が、タスクの助言により、枠組みを取り払い、将来をも見据えた発想に変わっていく過程を実感できた。
- WSでよく使っている動詞の表を取り上げ、薬剤師の将来の業務に当てはまる動詞が含まれているかについて議論しました。私たちのメンバーはタスク経験の豊富な方が多く、短い時間ながら中身の濃い議論となりました。通常のWS参加者は動詞の表に当てはめながら、議論を進めがちになる。「考えや思いを動詞表に縛られるのでは無いか?」、「タスクが効果的に介入するためのツールであればよいのではないか」という意見が出されました。
- 午前中のSGDは、動詞の表に足りないものを追加しようということで、実務実習の内容や薬剤師に求められる基本的資質を意識してディスカッションすることが求められた。説明を聞いた時点では少しも思いつかなかったが、いざ議論をはじめると、医師ものと比較して薬剤師の業務に直接関わる動詞が少ないこと、求める能力のレベルや深さを表し分けるようにするためのバリエーションが足りないことなどに気づき、非常に多くの動詞がピックアップされた。
- 一つめのセッションは「SBOsに使える動詞を考えてみよう」でした。ブランクの所為か、私の頭の中にはなかなか動詞が浮かんでこず、苦労しましたが、グループのメンバーが次々に発する動詞はどれも納得できるものばかりでした。ブランクの所為になどしてはおられぬと大いに周りから刺激を受けると同時に、グループのメンバーも同じようにワークショップで苦労されているのだなあ、と安堵したのも事実です。
- 午前中のセッションでは、指導薬剤師WSでGIOやSBOsといった目標作成時に参加者が参考にする「動詞表」を見直す作業を行った。見直しを行う理由について事前のプレゼンテーションでは、以下のメリットを期待していた。
  1. 薬学教育にふさわしい動詞の提供をすることで、WS参加者が作成するプロダクト報告書を含む)の質が向上する。
  2. タスクフォースの能力に寄ることなく、全国共通した方向性を示すことができる。
- 総合討論の中で、技能は実際に手足を動かして学習方法との解説があり、現状のワークショップのテーマである医療倫理は、技能の領域作成が困難になるのではと感じた。
- 明確な目標を作成するにあたっては、今回のアドバンストWSの最初のセッション「SBOsに使える動詞を考えてみよう」で動詞の数を増やすというのは、とても良い試みかと思えます。私たちのグループでは、動詞の数を減らしたほうがいいのでは?という意見もありましたが、初めて参加する受講者にとって選択肢が多くあるということは、限られた時間の中で効果的に作業を進めるという観点からも必要なことかと思えます。目標を立てる際には、どんなことが必要なかを考える、そしてそれを文章化する、その中で適切な動詞を選択するという流れであれば、選択肢は多い方が作業はより効果的で迅速になるはずで
- 今後は各地区で開かれるWSの中で、実際に参加者が作成した目標の中から出てくるだろう様々な動詞を持ち寄って、薬学教育にふさわしい知識、技能、態度を記述するための適

切な動詞を増やしていく議論をタスクフォース経験者がしながら、資料を充実させていくという考えがあっても良いかと考えます。

- ▶ ワークショップに TF として参加していて時々感じるのは、参加者は目標作成の際に、動詞例の表から領域やレベルをあまり意識せず、安易に選択してグループの総意としているのではないかという事である。なるほど「学習目標記述のための動詞(例)」は大変参考となるし、「ペーパードライバーの再教習(例)」は GIO の General や SBO の Specific を理解するには有用だとは思ふ。しかし、どちらも薬学教育にとって特異的な使用例があるとは言えないのでは思っていた。個人的には「実習するからにはこんなことができるようになってほしい。」「こんな風に行動が変わってほしい。」と思うことがあっても、全体のコンセンサスも得られていないので、TF としてどういう風に助言を行えば良いかわからず、大きなジレンマを感じる場所である。その点からは今回の集会の趣旨は私のニーズに大変マッチしていたと思う。現行モデル・コアカリキュラムの改訂作業が行われているが、今回の集会のテーマから改訂の方向が垣間見えたと思われるし、WS においてもそれが反映された目的動詞例となることを期待したい。
- ▶ WS において参加者は動詞の表を頼りに目標を文章化していこうとする傾向がみられるため、6年制薬学教育にふさわしい目標の動詞を提示することで、自然と参加者は参加型のカリキュラムを意識し、より実践的な目標が設定されることにつながる。
- ▶ 目標作成のための動詞を増やそう～ワークショップにおいて受講生は例示された動詞に影響されているようである。従って、例示する動詞例を増やせば、参加者の目標作成を支援することが出来ると共に、タスクフォースの介入を減らすことが出来るのではないかという仮定の下に、目標 (GIO、SBOs) のための動詞を増やす作業を行った。このセッションの中で、「討議する」や「参加する」は動詞として適当か、又、SBOs 作成に当たって動詞例を増やすという2点に関して議論を行った。その結果、前者に関しては、適切な副詞を加えること、例えば「積極的に」や「主体的に」を「参加する」という動詞に加えると、明確に測定可能な SBOs になるとの結論に至った。一見、SBOs の動詞として不適切と思われても、適切な副詞や形容詞を加えて味付けすることで、動詞が生きてくることを改めて認識した。一方、後者に関しては、圧倒的に「態度」を表す動詞が少ないことや医学教育で用いられている具体的な動詞（挿入する、手術するなど）が少ないなどの意見を参考に、態度を表す動詞としては、「寄り添う」、「傾聴する」、「共感する」、「寛容する」、「協調する」など多くの動詞が挙げられた。「態度」においても深さのレベルが異なる動詞を例示することで、求める深さのレベルがはっきりとした SBOs を作成することが可能となる。一方、技能に関しては、「計量する」、「混和する」、「調剤する」などの具体的な動詞が挙げられた。今後、このワークショップで提案された動詞が、実際の認定指導薬剤師養成ワークショップの資料に反映されることを切にお願いしたい。
- ▶ 「SBOs に使える動詞を考えてみよう」：学習目標記述のための動詞(例)については、例示されていても実際は使い難い語や、例示されていなくてもよく使われる語があることを、以前から感じてはいた。今回、この動詞の一覧を見直そうということで SGD が始まった。SGD の結果、「技能」「態度」の領域も動詞によって、学習者の到達するレベルの深さを表現することが可能ではないか。また、「技能」の領域では、薬剤師に求められる特有の技能を示す動詞があってもよいのではないか。また、時代とともに学習目標記述も変わっていくことため、新しい動詞も必要ではないかとの議論になった。SGD の中で、「知識」「技能」「態度」の内、「技能」とは何かについて考えさせられる場面があった。「技能」とは手足を使って行うことであり、英語の skill とは異なることを考えることが必要と再認識させられた。すなわち、「態度」や「知識」にも skill が必要な場合があり、「技能」と混同しないことが重要であるとの認識である。

- ▶ 動詞については、領域をどのように捉えて良いのかわかりにくいものがあると感じていたが、具体的な修正や医学分野の WS で用いられている資料との差異を意識したことはなかった。本 WS で提案された、技能は手足を動かすものと定義してみませんか・・・という考え方は、WS の参加者にとっても我々にとっても、直感的に理解しやすいものだったと思った。例えば「討議する」という動詞は、資料では情意領域となっているが、知識だとか技能だとか様々な論議があり、参加者の混乱を招く一つの要因であったかと思うが、それに対する一つの解決策になると感じた。しかし、動詞をどのように捉えるかについては、自分の中で再確認する必要がある、今後のタスクワークの中で WS に参加するタスクフォースが共通の意識を持つことが大切だと思う。
- ▶ それぞれの P 会場での全体討論は大変活発で、質問や指摘部分は今後の WS にタスクとして参加するうえで大変参考になった。
- ▶ WS の目標セッションでは、与えられた資料とタスクフォースを頼りに見う見まねで目標を考えるので、参考資料の質を向上させることは、より良いプロダクトやタスクフォースの個性に左右されない全国共通の方向性に繋がります。SGD では医学教育者 WS の資料を参考に、21 世紀の時代背景や薬剤師コンピテンシー、実務実習の現場を意識して、もっと具体的にでもっと夢のある動詞と使用例をたくさん考えました。活発な意見でなかなかいいものができたと思っていたら、他のグループからも更に素敵な動詞が提示されて、これからの薬剤師の可能性に気付かされます。
- ▶ 総合討論では「動詞例を提示する必要性」を討論したが、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加者は初めての経験で理解も出来ていない状態であり動詞の例を資料として配布することは必要であると感じた。
- ▶ 第 1 部の作業「動詞表(例)を見直してみよう」では、参加者のタスクフォースとしての実体験に基づいて、学習目標の行動を明確に言い当てた具体的な動詞が多く抽出できたように思います。初めてワークショップに参加される多くの方が難しく思うのは、頭の中では教育目標を漠然とイメージできていても、いざ文章に起こす段になると、キーワードから文章を作る際の動詞の選択に多くの時間を費やします。そのため、教育目標の中身を吟味する時間が少なくなりがちです。今回作成した動詞例をとりまとめて、今後のワークショップに活用することに賛成です。討論の中で、動詞例の充実、かえって参加者へ介入しすぎることにつながるのではないかというご意見がありましたが、タスクフォースが介入するのは、参加者の議論の中身ではなく、議論が気持ちよくスムーズに進行するためのサポートだという明確な立ち位置を持っていれば、介入しすぎることにはならないように感じます。さらに、タスクフォースの行動マニュアルのようなものを作成してはというご意見もありましたが、個人的には、微に入り細を穿つ説明や手順書を作成することは、ワークショップの良さ(自由な議論)を損なう可能性もありますので、現行の指針で十分だと感じています。
- ▶ 動詞を見直すことは重要であり、何度かワークショップを経験してくると、頻繁に出てくる動詞もあった。発表後の討論の中で、動詞の選択肢を増やし過ぎてしまうと、ワークショップの参加者の自由な発想が引き出せないのではないかと議論があった。確かに、動詞の数をそれなりに制限することで、参加者は自由に発想でき、自分達で動詞から考えることはためになると思う。しかし、タイトなスケジュールの中、時間が限られている中で自分達が作り上げていくのは難しいというより無理ではないかと思う。そのため、個人の意見としては、今回の SGD で考えたように、多くの動詞を選択肢として提供する方がいいのではないかと思う。(例え、タスク側が GIO や SBO 等目標となる文章を引き出した形になったにせよ、) 参加者同士が議論して得た。という目標であれば、そこに達成感や充実感が感じられるのではないだろうか。自分達がカリキュラムを組み立てて行くことで、その大切さが実感できるはずである。
- ▶ 動詞の見直しというよりも、「目標の作成」という観点に基づく動詞表(例)のあり方その

ものについて様々な考えを共有できた。更には、モデルコアカリキュラムにて既に目標が設定されているにも関わらず、養成ワークショップで「目標の作成方法を学ぶ」こと自体の意義について、参加者とタスクフォースの間で共通認識が図れていない、という指摘がなされた。この点については、タスクフォース内でも十分に共通認識になっていないことが、グループ内で議論された。これは目標作成に限らず現行の養成ワークショップ全体について言えることでもあると考える。現在、学習成果基盤型教育の考え方に基づきコアカリキュラム改定が進められている。これに合わせて、現行の指導薬剤師養成ワークショップのあり方そのものを見直す必要があると思われる。

## 【セッション2】

- 「学習目標の動詞を変えると何が変わるか？」といテーマでした。Aチームはセルフメディケーションのユニットで、まず、大学で教えてくべきという観点から、3)のSBOに着目して、「一般基礎知識を習得する」を変えることにしました。ディスカッションが進むうちに、三つのものを一度に考えるのではなく、分けて考えた方が、具体的なSBOになるということになりました。さらに、ディスカッションが進み、知識のレベルの深さを考えて、二つに分けました。SBOとして、「代表的なOTC、漢方、サプリメント、健康食品を分類する（想起）」「OTCについて、適切に選択する（問題解決）」と決定しました。もうひとつは、4)のSBOでこれは手足をつかっていないから、態度ではないか、技能の動詞に変えてみようということになりました。紹介状を作成して、受診勧奨が出来れば、学生にとって、薬局でも紹介状が書けるというわくわくしたSBOになります。ただ、紹介状を書くということが手足を使うかどうかメンバーの中でも迷うところでしたが、あえて、わくわく感を選考しました。態度の領域としたにもかかわらず、時間がなかったため、評価がレポートになってしまっていることに気付かなかったことは反省しています。
- 追加した動詞を使い、より具体的な、学生が見てわかりやすいSBOに改善した。方略や評価を考える過程で、学習の領域について見直し、領域や深さについて整理ができたと思う。タスクと参加者という立ち位置が変わることで、タスクの重要性を再認識すると同時に、効果的な介入も学ぶことができた。
- 午後のSGDでは、以前につくられたGIOとSBOsをみて、動詞の部分を中心に修正してみようということで、我々のグループにはセルフメディケーションに関する目標のプロダクトと参考のためのその方略が与えられた。それを作成した人の意図を汲み取ってということであったが、実際にディスカッションのプロセスを見ているこなしにそれを考えることは困難と感じられ、結局は自分たちの考えを反映したものに修正することになってしまった。しかし、作業自体は大変興味深く、学べるが多かった。実務実習指導薬剤師養成のワークショップでも方略や評価を学ぶことに重点をおくべきではないかという意見もあるようであるが、やはり目標についてよく理解していることは重要であると感じた。
- 二つめのセッションは「学習目標の動詞を変えると何が変わる？」でした。午前中のセッションでも少し見え始めていた、副詞を上手に用いることで学習目標がより明確になること、これまで通常のワークショップでは触れられてこなかった技能や態度の領域に深さを求めることが可能になる、ということが自分の頭の中で段々と明確になってきました。課題として与えられましたプロダクトの見直しを行っていく過程で、現場の先生方からこんなことがあるよ、あんなことがあるよ、といった実例を聞くことができたのも大学教員としては、新鮮でした。また、グループのメンバーと話し合う中で、段々とプロダクトが出来上がっていくワークショップならではの楽しさも、参加者の立場で改めて認識した次第です。